

## 二年ぶりの明専スクールを開催して

物材H6 吉田 達哉



### ●はじめに

新型コロナウイルス感染症の第5波が落ち着きを見せた、昨年10月、11月に半日×3回（10月9日、10月23日、11月6日）の日程で、第10回明専スクールが2年ぶりにオンラインという初の試みで再開しました。

明専スクールは、内定を受けた当年度新卒予定の学生のうち、所属する研究室の指導教官の推薦を受けた者を対象に、新社会人として一歩先駆けてスタートできるよう、企業の第一線で活躍している明専会の諸先輩を講師や指導員とし、先輩達の業務経験に基づく様々な講義を受講し、

また、企業での業務の一端の疑似体験ができるもので、2011年度に立ち上げられました。

今回までの10回の明専スクールの修了生は300名を優に超え、様々な企業、それぞれの分野で力戦奮闘の活躍をしています。

### ●新型コロナウイルスとの戦いの中で

2019年の第9回の開催直後からたちまち猛威を振るい始めた新型コロナウイルスの蔓延の影響で、2020年度の開催はやむなく中止されました。新型コロナウイルス禍でも明専スクールを開催するには、参加者、講師、指導員及びスタッフ等関係者の全員の感染リスクを低減する必要がありますがあり、以前のように戸畑キャンパスの教室で一堂に会しての講義の受講やグループディスカッションは非常に困難となりました。それでもこのような状況下でどうにか継続して開催しようと、オンラインで開

催するという、新たな方式にチャレンジしました。先輩方による講演はWEB会議システム（Zoom）を用いたリアルタイムの同期型の講演と、録画したものを受講者が自身の都合に合わせてWEB上で視聴する非同期型の講演としました。グループディスカッションでは企業での実践業務さながら、全体で日程を決めたWEB会議と、各グループでメンバーの都合に合わせて個別WEB会議の開催としました。全体日程はそれらの進め方に応じて、以前は全日×3回の合計3日でしたが、オンライン開催では半日×3回の合計1.5日（個別WEB会議の日数は外数）での開催となりました。

また、受講者同士や講師・指導員との親睦を深め、スクールでの成果をより効果的に得るために実施していた懇親会も、宅配サービスとWEB会議を活用した、いわゆるオンライン飲み会で実施しました。

長年積み上げてきた運営実績はありましたが、それらを元にこのような新たな手法で、企画・運営スタッフ、講師、指導員の全員が手探りで実施しました。

### ●講演受講と出張報告書の作成

講演は非同期型では、西尾先生の「明専〜九州工大 建学の歴史」、吉田先輩（トヨタ自動車九州）の「海外事業を含めた企業活動事例」、石橋先輩（安川電機）「企業における知的財産」、同期型では、浅辺先輩（野村総研）の「企業とは」、山本先輩（ソニーセミコンダクタソリューションズ）の「企業における実践」を各先輩の経験と、それに基づく企業人としてのあり方や後輩達へのメッセー



図1 オンラインでの講演の聴講

ジを熱弁していただきました。私自身は指導員として講演を拝聴いたしました。でしたが、いずれも非常に興味深く、自身の仕事の仕方や向き合い方に改めて参考になるものでした。

受講者にはこれらの講演を受講するだけでなく、出張と位置づけて出張報告書の作成トレーニングとして取り組んでいただきました。皆、研究の忙しい合間を縫って、期日までに提出し、指導員の添削に対する修正を精力的に実施してくれました。指導員として、添削指導を素早く吸収し、皆が急成長する姿を目の当たりにし、非常に頼もしく思いました。

### ●グループディスカッション

テーマを「企業においてイノベーションを通して、企業理念の実現に貢献するために技術に堪能なる土君子としてどう行動すべきか」とし、「当事者意識を持ってグループで話し報告する」というもので、正解が一つではなく、それぞれが根拠をもってグループとしての考えをまとめるという、通常の授業では体験できないが、企業で度々遭遇することを体験しながら学んでいただきました。

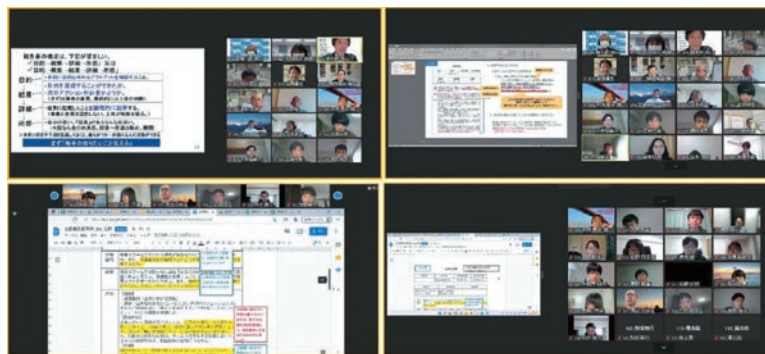


図2 オンラインでの出張報告書添削解説の様子

た。進め方はリーダー、進捗管理、資料作成、発表者等の役割を自分たちで分担し、チームで協力し合って期日までに資料を仕上げ、発表するまで、自律的に推進することでより実践に近い体験してもらえたと思います。初めてのオンラインでのグループディスカッションでしたが、受講者たちはそれをものともせず、ICT（情報コミュニケーションツール）を駆使し、活発な議論と若い発想で

自分たちの意見をまとめ上げ、指導員の期待以上の発表を繰り広げました。

### ●明専スクールでの学び

受講者の得られる学びは、様々な企業で働く先輩達との交流を通して、社会に飛び出す前の心構えができることはもちろんのこと、先述のスキルの体得や業務の疑似体験が臨場感を持つてできることだと思います。また、同窓の他学科の学生と交流ができ、幅広い考え方をすることもできます。スクール修了生となった方々には是非ともその経験の良さを後輩たちに伝え続けてほしいと思います。

一方、講師や指導員からしても、学生の取り組みに対して相談を受け、またアドバイスをすることで、普段の会社での部下や後輩指導とは違った経験ができ、新たな気付きを得られることがあると思います。またさらに、他企業の先輩方の経験や考えにも触れることができ、非常に貴重で有意義な場となりました。明専会の先輩方にもこの活動をさらに知っていただき、様々な形でサポートに加わっていただければと思います。

### ●最後に

明専スクールは、受講生だけでなくスタッフも相互に成長できる場であり、それが好循環してゆくことのできる素晴らしいものだと感じています。この明専スクールをこれからも時代や環境にマッチした形で継続してゆくことが有用と信じています。今後も継続するために、学生の皆さん、明専会の先輩方にもっと興味を持っていただき、益々のご支援をいただきたいと思います。

(日本製鉄株)



図3 オンラインでのグループディスカッション報告